

NCNP市民公開講座 開催のご案内

NCNPでは1年を通じてさまざまな講座を開催しております。ぜひお申し込みください。

7月
開催

薬物依存研究部

「仲間とともに回復する薬物依存症」



薬物依存症からの回復には、医療機関での専門的治療と並行して、自助グループや、ダルクなどの民間リハビリ施設などの社会資源を利用することが重要です。

今回の市民公開講座では、薬物依存症センターが実施したダルク利用者の追跡調査の結果を紹介するとともに、ダルクの職員をお招きして、その活動について報告していただき、多くの方々にダルクの重要性を知っていただこうと考えています。

■ 2020年7月18日(土)

13時30分～16時30分

■ 会場：ユニバーサルホール

■ 定員：150名(参加費無料)

■ 対象：本講座に関心のある方

市民公開講座などの情報に 関心を持っていただいている皆様へ

医療連携福祉部長 三山健司

平素当センターが開催いたしております市民公開講座など種々のイベントに関心を寄せて頂き有難うございます。

このページでは、当センターが企画しております種々のイベントの予定(通常は1年以上先まで予定を調整しております)を皆様にも知っていただくべく、直近で予定されているイベントにつきまして、スペースの制約がある中で、具体的内容等がわかりやすくご案内できるよう心がけております。

しかしながらこれらのイベントの多くは、閉鎖空間である会場で比較的密集した形式で開催する形態をとらざるを得ません。昨今のCOVID-19の国内での広がりを考慮いたしまして、中止・延期のご案内をせざるを得ない例が続いております。現時点では感染の収束時期も見通せないことより、今後とも開催予定のご案内をしております。残念ながら中止・延期の決定に追い込まれるケースも増える可能性があります。

もちろん感染が落ち着きを見れば、皆様に参加いただけるようスタッフ一同力を注ぐ所存ではありますが、当面の状況の推移をご賢察いただき、予定の変更もお願い申し上げます。

最後に皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

●各市民公開講座の申し込みにつきましては病院ホームページをご覧ください

会場のご案内



- 西武新宿線拝島行または西武遊園地行にて「萩山駅」(南口)下車、徒歩7分
- JR中央線国分寺駅乗換え、西武多摩湖線「萩山駅」下車、徒歩7分
- JR武蔵野線「新小平駅」下車、徒歩10分

NCNP 診療ニュース

T O P I C S

未診断疾患イニシアチブ(IRUD)について

2020.5
Vol.16

診療科紹介

総合内科部

各部門紹介

栄養管理室
臨床研究
推進部

専門疾病センター紹介

統合失調症早期
診断・治療センター
てんかん
センター

施設紹介

精神保健
研究所

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry

NCNP診療ニュース Vol.16 2020年5月発行
国立精神・神経医療研究センター病院 発行責任者：病院長 中込和幸
〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1
Tel.042-341-2711(代表) <http://www.ncnp.go.jp/>

未診断疾患イニシアチブ (IRUD) について



特命副院長・脳神経内科診療部長
IRUD事務局担当医師
高橋 祐二

医学が飛躍的に進歩した現在にあっても、様々な臨床検査を行っても診断できない、いわゆる未診断疾患が数多く残されています。未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases: IRUD) は、全国の未診断疾患の患者さんの診断を確定し、原因を解明し、治療法を開発することを目的に、日本医療研究開発機構の国際基幹プロジェクトとして2015年に発足しました。IRUDの特色は、各地域の拠点病院を中心とした全国縦断的・専門分野横断的な診断連携、網羅的遺伝子解析等の革新的検査による診断確定、国際連携可能な臨床情報データベースを活用した原因解明です。NCNPはコーディネーティングセンターとして研究全体を統括するとともに、精神・神経疾患領域の拠点病院としても活動しています。IRUD全体では、これまでに4658家系13289名の登録を行い、3634家系で解析が終了し、1593家系で診断が確定しています(診断率43.8%) (2019年9月時点)。35の新規原因遺伝子・疾患を発見し、新たな治療法の開発につながる知見も多数得られています。今後もNCNPが中心となってIRUDを継続的に発展させていくことが求められています。



事務局



NCNPでは、月に一回、院内各部門(脳神経内科、小児神経科、精神科、脳神経外科・メディカルゲノムセンター)に加え、小平医師会から香取竜生先生(公立昭和病院小児科部長)にご参加いただいで、診断委員会を開催し、エントリーの検討から最終的な診断の確定までを行っています。

NCNP
病院
診療科紹介

総合内科部



精神・神経疾患と一般内科



総合内科部長 瀬川 和彦

診療体制

総合内科は、循環器科(瀬川和彦)、消化器内科(有賀元)、心療内科(富田吉敏)の3名で診療を行っています。精神疾患、神経疾患、筋疾患、及び発達障害の克服をめざすという病院の理念に則り、患者さんに寄り添い、合併する内科疾患の診療に努めています。

過敏性腸症候群(IBS)

過敏性腸症候群は英語表記の irritable bowel syndromeの頭文字をとってIBSと略します。腹痛、下痢、便秘を数か月以上にわたって繰り返す病気で、ストレスにより腸の収縮運動が激しくなり、痛みを感じやすい知覚過敏状態になることで発症すると考えられています。消化器内科、心療内科では、このよ

うな患者さんに対し、まず器質的疾患がないことを確認し、心理面と身体面を並行して治療しています。また適応となる患者さんには、当センターの精神保健研究所行動医学研究部と共同で認知行動療法を行っています。

筋ジストロフィーと心筋症

筋ジストロフィーにはいくつかの病型があり、心臓の筋肉に障害を起こすタイプがあります。また同じ病型であっても、障害の程度や速さに個人差があります。循環器科では小児神経科、脳神経内科と連携して、心エコー検査により心機能を定期的にチェックし、障害の程度に応じた治療を行っています。



心療内科 富田 吉敏 医師

消化器内科 有賀 元 医長

栄養管理室

栄養管理室長 宮本 佳世子

入院・外来共に様々な側面から
患者さんの栄養管理を行っています。

栄養管理室は、管理栄養士 6 名、調理師 4 名、給食委託会社職員で給食管理業務を行い、入院中の患者さんの食事を、安全・安心、そして患者さんに喜んで頂ける食事サービスの向上をモットーにご業務を行っています。また管理栄養士は給食管理業務以外に、栄養食事指導、基礎代謝量の測定、チーム医療等の業務を担い、患者さん個人個人の栄養状態の把握と過不足改善のための栄養管理計画の作成、食生活の改善教育を行い、食を通じた治療貢献を行っています。



栄養食事指導



調理風景



基礎代謝測定



全員写真

NCNP病院
各部門
紹介

臨床研究推進部

臨床研究推進部長 小牧 宏文

脳とこころの病気の克服を目指した
研究を推進



脳とこころの病気の克服を目指した研究開発を推進するために必要な治験や臨床研究の実施を支援することを主な業務としています。治験や臨床研究を行っていくには決められたルールを遵守し、参加いただく患者さんの人権や安全が最大限に配慮されなくてはなりません。臨床研究推進部は臨床研究コーディネーター（CRC）を中心に患者さんに寄り添い、安心して研究に参加いただけるように支援しています。



<http://www.ncnp.go.jp/>

統合失調症早期診断・治療センター

第一精神診療部
統合失調症早期診断・治療センター
吉村 直記

早期の診断と治療による回復のために



当センターでは、主に発症後 5 年以内の統合失調症の患者さんを対象に、専門外来で診察後、当センターのデータベースへ登録された方には、統合失調症の症状で最近注目されている認知機能障害に関する検査を行い、その結果を患者様へご説明しています。また、1年ごとのフォローアップ検査によって、認知機能の縦断的な評価も行っています。さらに、精神科専門看護師による患者手帳などを用いた統合失調症の心理教育も行っています。病気の予兆がある患

者さんに対して、発症を予測する因子の研究も行っています。



専門疾病センター

NCNP病院には現在11の専門疾病センターがあります。
診療科や専門分野を超えたチームにより高度専門的医療を行います。

てんかんセンター長（特命副院長）
中川 栄二

てんかんセンター

てんかんの包括的診断と治療をめざす

てんかんセンターは、NCNP内の病院、神経研究所、精神保健研究所の多様なスタッフで構成されており、てんかんの患者さんの診療、心理社会面の支援を中心に、てんかんの臨床・基礎研究、教育活動、社会貢献活動を行っています。診療は、複数科のてんかん常勤専門医(10名)を中心に、乳児期から成人・高齢者のすべての年齢層を対象に、様々な難治例を含むてんかんの治療を行っています。手術件数(年間105件)はわが国随一で、小児、特に乳幼児のてんかん手術が多いのが特徴です。また、病院内の各部門、センター内外の研究機関と協力し、外科標本の



神経病理、遺伝子解析などによるてんかんの病因の究明、発達への影響の解明、精神症状・発達障害の併存症状の診断と治療、新たな放射線診断法の開発など研究活動を行っています。当センターは厚労省のてんかん地域連携体制整備事業の全国拠点機関に指定されており、全国各地の拠点機関とともにてんかん診療の地域連携体制の構築をすすめています。

NCNP施設紹介

病院と連携している
NCNPの施設をご紹介します。

精神保健研究所

精神保健研究所所長 金 吉晴

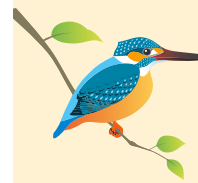
いっしょと暮らしに向けた精神医療研究

当研究所は「精神疾患の病態解明と治療の開発」と「生活に即した治療と支援」というミッションを追求してきました。すべての研究部が、専門性の違いはあったとしても、このふたつの柱を意識した総合的な研究活動と社会還元を目指しています。ゲノムや脳画像、認知機能を通じた病態解明に取り組む一方で、認知行動療法や、治療ガイドラインの開発、普及に取り組んでいます。また患者や家族が社会で安心して生活できる支援制度、入院医療の進歩のためにデータを駆使した研究を行い、自治体とも連携し、厚労省からも薬物依存症、摂食障害について

の支援ネットワーク作りや発達障害やPTSDについての研修を任されています。それ以外にも多くの研修、地域活動、情報発信を通じて研究所で得られた成果を第一線の医療や生活に実装するとともに、現場の声を吸い上げた研究を推進しています。



Nature



NCNP四季便り

情報システム顧問 永井 秀明

エゴノキ

梅から桜へと続いた病院前の花のリレー。

五月になるとそのバトンを引き継ぐのがエゴノキです。

白い花に黄色い雄しべがアクセント。

この木は別名石鹸の木とも呼ばれ、夏にできる淡い緑色の丸い実にはサポニンという成分が含まれていて、潰して水に混ぜると上澄みが石鹸水のように泡立ちます。

昔はこれで本当に洗濯や洗い物をしていたそうです。

夏の実りも楽しみです。



エゴノキの花



エゴノキの実

病院コンサート

Concert

海蔵亮太5th Live! 開催

今年初の病院コンサートは、今回で5回目となる歌手・海蔵亮太さん。コンサートに行くことができない患者さんにも音楽を届けたいと各地の病院訪問ライブを重ね“ホスピタルプリンス”とも呼ばれる海蔵さんの優しい歌声と微笑みに癒されました。昨年末日本レコード大賞新人賞を受賞され、今後の活躍がますます楽しみです。



企画戦略室広報グループ 村川 理保

